

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 江東区立深川第一中学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒136-0004  
東京都江東区森下四丁目9番22号

E-mail fuka1-chu@koto-edu.jp

Website http://fuka1-chu.koto.ed.jp

幼児児童生徒数 男子名 110 女子名 75 合計 185 名  
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「社会と連携してより良い社会を創る」を学校理念として、ESDを「生きる力」と捉えESDの実践を通して「6つのスキルと7の育成」を目標とした。

具体的には、「深一学」(総合的な学習の時間)を柱に、異年齢集団(3年生から1年生の混成グループ:縦割り)を作り、グループで課題を見つけ学習の計画を行いそれによって探求学習を行い、グループなりの解決を図っていく問題解決型の学習を行った。学習の具体的な流れとしては、①課題の設定と情報収集、②情報の整理・分析、③まとめ・発表、の順に学習を行った。

### ①課題の設定と情報収集に関わる活動

年度始めに「深一学」についてのオリエンテーションを実施しアンケートにて領域(7領域:①国際問題、②宇宙・自然、③芸術・文化、④地域、⑤人間の心・体、⑥社会現象、⑦生物多様性)を基準にグループ分けを行った後、グループに分かれ課題の設定を行った。課題設定を行った後は、各グループで課題に関する情報収集をパソコンやタブレット、書籍など行いを活用し行った。また教師は3

グループを受け持ちグループごとにストーリープラン(ESD カレンダー)を作成しファシリテーターとして生徒に関わり課題解決へ向けて導くよう6つのスキルの活用も促しながら活動を行った。(グループは、全48グループ)

## ②情報の整理・分析に係わる学習

情報の整理・分析ではグループ討議による情報の共有、収集した情報の比較と分類、比較・分類された情報から仮説や類推などを行い、検証した課題について探求していく学習を行った。学習活動を通してコミュニケーションを図れるよう教師は支援し対話の重要性を伝え、調べ学習に止まらず問題解決に繋がるようグループの方向性を見定めながら指導を行った。

## ③まとめ・発表に係わる学習

まとめ発表に係わる学習では、文化祭での展示発表に向け整理した情報を模造紙にまとめる活動を行った。その際には、情報のまとめ方や見やすさやレイアウトなどをグループで話し合い役割分担を行い責任と他者と協力する態度を持って制作することに取り組んだ。今年度は、学習の途中経過を模造紙にまとめ最終の発表に繋げるための展示発表を行った。

発表については、中間発表と学習発表の2回発表を行い、中間発表では領域ごとに分かれ領域内で途中経過の発表を行い、生徒からの評価と発表の様子を収めたビデオを見た校長先生からの講評を各グループに行い、最終の学習発表へ繋がる活動を行った。

最終の学習発表では、領域を越えて生徒が興味のあるグループの発表が見学できるよう2時間に分けて時間を設定し発表会を行った。発表会の学習内容としては、模造紙に情報をまとめる、パワーポイントを作成する、発表の役割分担、発表のリハーサルなどの活動を行った。発表の最後には、他のグループとの意見交換や質疑応答などで学習を深めることができた。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

グループの数が多く具体的に活用された、書籍、ウェブサイトなど把握ができておりません。今後記録できるよう努めます。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、各教科で ESD に関する授業を行うと共に、学年や特別支援学級の垣根を越えた異年齢集団による探求的学習・協同的な学習・問題解決学習である「深一学（総合的な学習の時間）」において活動を深めている。「深一学」は、年間授業数を 30 時間設定（来年度スリム化を図る）、探求的な学習・協同的な学習の成果を引き出すためのスキル 6 項目（①比較スキル、②仮説スキル、③類推スキル、④分類スキル、⑤コミュニケーションスキル、⑥情報収集スキル）を設定し、ESD 教育の育てたい 7 つの能力・態度の育成に取り組んでいる。本校は、タブレット 40 台とコンピューター室タブレット 40 台による情報教育の推進もしており、各教科と「深一学」において ICT 支援委員との連携を図り、情報収集やプレゼンテーションの素材作成など積極的に活用し活動に取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

全生徒に、学習領域（7 領域：①国際問題、②宇宙・自然、③芸術文化、④地域、⑤人間の心・体、⑥社会現象、⑦生物多様性）の希望調査を行い、それをもとに 1 グループ 4 人、全 48 グループに分けて「深一学」を展開している。3 年生がリーダーとなり役割を決め問題解決に向けて活動に取り組んでいる。教師は ESD カレンダー、ストーリープラン（ESD カレンダー的計画）を計画し先を見据えて指導するが、直接的には「支援者」として一人 3 グループの探求学習のサポートを行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎回の授業後に生徒自ら振り返りシートの記入、学習発表では ESD における身につけさせたい 7 の能力・態度の評価項目に加え 6 つのスキルに関して生徒同士が評価を行い自らの評価も行っている。7 の能力・態度については各学年共に「身についた」、「他者と協力する態度」「コミュニケーションを行う力」が身についたという結果が見られた。一方では、「批判的に考える力」が最も低く「未来を予測して計画を立てる力」も集計結果が低いので今後重点的に取り組む必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

文化祭において、48 のグループがそれぞれのテーマに沿って学習してきたことを模造紙にまとめ展示発表を行った。保護者や関係者から、学習のユニークな形態や学校での学習の様子が知ることができ良かったという声が聞かれた。学校だよりや学級通信を活用し ESD 教育の発信にも努めている。また小学校との交流学习の際にも、「深一学」の見学を設定し生徒や教育関係者に本校の ESD 教育の取り組みを発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

今年度は、学校外の団体との協働・交流などは行うことができませんでした。今後ネットワーク形成に努めていきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は、学校外の団体との協働・交流などは行うことはできませんでした。今後ネットワーク形成に努めていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ポジティブな変化は、3年生がリーダーとなり責任を持ってグループの後輩を引っ張っていくといった流れが自然と定着してきている点である。異年齢集団活動を通して、学習方法と学習の流れを1年生から経験することにより先輩から学び協力して課題に取り組むといった姿勢が身につけ継がれている。また調べ学習になりがちな学習を教師が問題解決学習へと導き、それを生徒もだんだんと理解し問題解決への提言内容も具体的な内容が増えてきている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度の活動計画は、従来のESD教育の活動内容に持続可能な開発17の目標(SDGs)を取り入れ活動を進めて行く。各教科では、SDGsの浸透を目標に取り組み、「深一学」では、領域を7領域から5領域（①国際問題、②宇宙・自然、③芸術・文化、人間の心・身体、社会・地域）に絞り、領域とSDGsの関係性を持ち169ターゲットを取り入れられるよう活動していく。ターゲットの内容に記されているグローバルな問題解決に取り組むことは、難しい面もあるができる限りチャレンジしていき、まずはthink globally, act locallyを目指して取り組んで行く。ESDカレンダーについては、各教科のESDカレンダーと深一学(総合的な学習の時間)カレンダーの2種類作成していく。特に深一学のESDカレンダーの作成に取り組み、その過程でストーリープランを作成し先を見据えて計画していく。

来年度も「学ぶことを学ぶ」を目標に、ESD教育を通して生徒の「生きる力」の育成に取り組み、ユネスコスクールの4つの分野が本校の教育課程に浸透するよう継続して活動していく。